

第 19 回介護福祉士 国家試験 問題・解説（やまだ塾）

＝⑩精神保健＝（問題 69～問題 72）

（2007 年 5 月 24 日ホームページ掲載）

【精神保健】

問題69 精神障害とその症状に関する次の組み合わせのうち適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 神経症……………幻聴
- B. 認知症……………フラッシュバック
- C. アルコール依存症……………人格変化
- D. 躁病……………観念奔逸

（組み合わせ）

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 69: 正答 5 × × ○ ○

A. ×「神経症」には幻聴は生じない。神経症とは、心理的な原因によっておこってくる心身の機能障害で、症状には、身体的な不安を主とするもの（心臓神経症、胃腸神経症など）、社会的な場面での緊張不安を主とするもの（対人恐怖症、場面恐怖症など）、強迫観念を主とするものと（不潔恐怖症、不完全恐怖症など）、とさまざまな形態があるが、共通する特徴は強い不安と緊張である。幻聴とは、幻覚の一種であり、実際には何も聞こえないのに、音や声が聞こえると感じるもので、幻覚の中では一番多い。認知症においてもみられる症状である。

B. ×「認知症」にはフラッシュバックは生じない。フラッシュバックとは、心的外傷後ストレス障害（PTSD）において、外傷体験が突然脳裏によみがえって再体験することである。

C. ○アルコール依存症は薬物依存症の一種で、自らの意思で飲酒行動をコントロールできなくなり、強迫的に飲酒行為を繰り返す精神疾患である。人格変化を引き起こす疾患であり、依存に陥ったことを周囲のせいにして攻撃的・他罰的・自己中心的な性格になる。一方では、自分のせいにして自虐的になり、後悔・不安・孤独に苛まれる。

D. ○観念奔逸とは、観念が次々と浮かんできて、思考がわき道に逸れ、目的観念を失った状態をいい、

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

躁状態、酩酊などでみられる。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題70 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. てんかんは発作が起こらなくても、服薬を継続する必要がある。
- B. ストレスを引き起こす生活上の出来事が引き金となり、心因性に起こる精神病を症状性精神病という。
- C. 統合失調症の症状は、幻覚、妄想を主とした陽性症状と、感情の平板化、意欲の欠如などを主とした陰性症状とに大きく分けられる。
- D. 老年期うつは、不安・焦燥傾向を示しやすい。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問題 70:2○×○○

A.○医療現場における「服薬コンプライアンス」という用語があり、これは正確な服薬を行うことを意味する。てんかんのような長期間の治療を必要とする疾患の服薬においては、正確な服薬を継続することが難しいといわれている。これは、本人が服薬内容を積極的に了承できていないことから起こるものとされている。

B.×「症状性精神病」ではなく「心因性精神病」である。感染などの脳以外の身体疾患の経過中に出現する精神障害のことを「症状精神病」という。

C.○統合失調症の症状は、目立った症状である陽性症状と、目立ちにくく、一見他の病気のようにも見える陰性症状の2種類の2大症状が現れる。陽性症状は、妄想、幻覚、理解不能な会話、解体した行動、緊張病性の動かない行動などで、外見からもすぐに分かる統合失調症特有の症状である。一方、陰性症状は、主に感情の平板化、意欲の欠如、思考力の欠如などである。

D.○老年期のうつ病の症状は若いうつ病と基本的には変わらないが、不安や焦燥が強い点が特徴である。老年期のうつ病では、強い不安・焦燥を伴い、自分は病気ではないかというような心気症状を訴え、自殺念慮を伴う傾向がある喪失体験(配偶者や友人との死別など)が誘因となりやすく、再発率が高いといわれている。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題71 アルツハイマー病に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 男性に比べて女性に多い。
- B. 緩徐に発症，進行する。
- C. 早期に人格が変化する。
- D. 最も多い初期症状は，記憶障害である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題71: 正答1○○×○→筆者は、Cは設問の記述以外の見解(Cは正しい)が存在し、複数正答としての○○○○が選択肢にないため、問題71は「不適切問題」として「正答なし」として対処すべきであると考えます。

●Cについては、アルツハイマー病の初期症状に「軽度の人格変化が認められる」という見解が公表されている(筆者は、十文字学園女子大学教授、獨協医科大学名誉教授 森 三樹雄先生の見解を参考にした)。したがって、設問の解答(「誤り」)以外の見解も存在することになり、Cは「誤り」という解答とは断定できない。反論として、「早期に人格が変化する」と書いてあり「早期に人格が変化することがある」とは書いていないということが想定できるが、そうであれば「早期に人格が変化することが特徴である」などの正確な表現が必要であり、「不備があり、適切さを欠いた設問」という指摘の反論にはならないと考える。

●筆者がこだわる理由は、国家試験の解答(正答)として「早期に人格が変化する」のが「誤り」とすれば、「アルツハイマー病は、早期に人格が変化しない」と受け止めて学習する者が出て、影響が少なくないことから、言いくるめるではなく、これから受験する者に対しても、正確な知識を提供すべきだと考えるからである。

●結論として、1(○○×○)が正答と発表されたが、○○○○も正答となり得るので、「不適切問題」として「正答なし」が適切な処置であると考えます。

●さらに、設問B、Dにおいても、不備のある設問であると考えますが、不適切とまでは言い切れない。

●DSM-IV-TR(アメリカ精神医学会)による「アルツハイマー病」の診断基準は以下の通りである。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

(『DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引』医学書院 2002)

「A 多彩な認知欠損の発現で、それは以下の両方により明らかにされる

- (1) 記憶障害(新しい情報を学習したり、以前に学習した情報を想起する能力の障害)
- (2) 以下の認知障害の1つ(またはそれ以上)
 - (a)失語(言語の障害)
 - (b)失行(運動機能が損なわれていないにもかかわらず動作を遂行する能力の障害)
 - (c)失認(感覚機能が損なわれていないにもかかわらず対象を認識または同定できないこと)
 - (d)実行機能(すなわち、計画を立てる、組織化する、順序立てる、抽象化する)の障害

B 基準A1 およびA2 の認知欠損は、そのおのおのが、社会的または職業的機能の著しい障害を引き起こし、病前の機能水準からの著しい低下を示す

C 経過は、緩やかな発症と持続的な認知の低下により特徴づけられる

D 基準A1 およびA2 の認知欠損は、下記のいずれかによるものでもない

- (1) 記憶や認知に進行性の欠損を引き起こす他の中枢神経系疾患(例:脳血管疾患、パーキンソン病、ハンチントン病、硬膜下血腫、正常圧水頭症、脳腫瘍)
- (2) 痴呆を引き起こすことが知られている全身性疾患(例:甲状腺機能低下症、ビタミンB12 または葉酸欠乏症、ニコチン酸欠乏症、高カルシウム血症、神経梅毒、HIV感染症)
- (3) 物質誘発性の疾患

E その欠損はせん妄の経過中にのみ現れるものではない

F その障害は他の第I軸の疾患(例:大うつ病性障害、精神分裂病)でうまく説明されない」

A.○性別では、女性が多く男性の2倍である。

B.○設問に不備はあるが、上記の解説を参照のこと。

C.不明

D○設問に不備はあるが、上記の解説を参照のこと。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題72 脳血管性認知症に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 高血圧や糖尿病などが危険因子となる。
- B. 記憶障害を伴うことが多い。
- C. 感情失禁は見られない。
- D. 多発性脳梗塞が原因であることが多い。

(組み合わせ)

A B C D

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- 1 ○ ○ × ○
 2 ○ × ○ ×
 3 ○ × × ○
 4 × ○ ○ ×
 5 × ○ × ○

問題 72: 正答 1○○×○

A.○脳血管性認知症は、脳梗塞や脳出血などによって脳の神経細胞に酸素や栄養が行き届かなくなつて障害が起こる。梗塞や出血の程度が大きければ一度の発作で認知症が生じるが、自覚症状がない小さな発作を繰り返すうちに神経細胞が広範囲に傷つき(多発性脳梗塞)、やがて認知症が起こる。予防としては、脳梗塞、脳出血の原因となる脳動脈硬化を防ぐことが大切であり、他に高血圧、高脂血症、糖尿病など生活習慣病も危険因子とされる。

B.○脳血管性認知症は、アルツハイマー型認知症とは違い、記憶障害が著しいわりに、人柄、日常的判断力、理解力などは比較的保たれ、知能の障害が「まだら」である。

C.×「感情失禁は見られない」ではなく「見られる」である。脳血管性認知症では、歩行障害、手足の麻痺、呂律が回りにくい、パーキンソン症状、転びやすい、排尿障害(頻尿、尿失禁など)、抑うつ、感情失禁(感情をコントロールできず、泣いたり、怒ったりする)、夜間せん妄などの症状が早期からみられることがある。

D.○多発性脳梗塞による認知症は、認知症全体の 10%~20%の割合を占めるといわれている。上記 A の解説を参照のこと。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】